

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370104998		
法人名	株式会社 SHメディカル		
事業所名	グループホーム かえで		
所在地	岡山市南区松浜町7-34		
自己評価作成日	平成27年11月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3370104998-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	平成28年1月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

国が掲げている「新オレンジプラン」推進に向け、地域の清掃活動や、小学生の下校時の見守り隊をはじめ、「いきいき倶楽部」と称して入居者と地域の子供さんとの交流の機会も定期的に開催するなど、地域との交流も更に深まり、地域に根ざした開かれた施設になってきています。そして、認知症介護実践者研修・実践リーダー研修修了者を中心に「お一人おひとりの能力を活かした温かいケアを提供します」の理念にもとづき、入居者様に寄り添いながら、その思いを理解し、その人らしく自立した生活が送られるように支援しています。また、行事や運営推進会議へのご家族様の支援をいただく機会も多くあり、家族同士の交流も盛んに行なわれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム開設12年となる昨年度から今日に至るまでの間に、ここでの看取り・入院・その他の事情で半数程の利用者の入れ替わりがあった。その為に利用者の平均年齢や介護度も低くなり、台所仕事やそれぞれの楽しみ事に熱中する等、グループホーム本来の姿が多々見られるようになってきている。かつてこのホームの念願であった地域との交流や家族の積極的な協力の状況も、その参加状況だけから見ても目を見張るものがある。地域・家族・ホームの絆は三位一体の様相に近付いていると思われる。また、ホームの協力医療機関との密接な連携によって医療面での心配は無く、今までに10人程の看取りを経験し、毎年実施している「改善コンクール」でも素晴らしい報告をしている。さらにこのホームで注視すべき点は「利用者一人ひとりの思いの尊重」に向けての姿勢と思う。日々の経過記録やケアプラン関係、その他の業務の中から、また、普段の何気ないやり取り中であつかい知事ができた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「個々の能力を生かした温かいケア」の理念を、日々話し合いながら共有し、実践している。	理念を基本に毎年ホームの目標を定め、今年度はより知識を深めていこうと「キャリア段位アセッサー」を取得した職員を中心に質の高い人材育成に取り組んでいる。また、ホームを紹介するチラシを作成して地域に配布・掲示をし幅広い地域交流を目指している。	ホームの玄関に一人ひとりの職員が理念をそれぞれに具体化した目標を掲示している。誰が見ても分かり易い内容となっているので、今後も継続し、より温かいケアにつないで欲しい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のスーパーを利用して馴染みの関係を築いている。行事等を通じて近所の方とも日常的に交流が増えている。	毎年恒例になっている「夏祭り」には地域の人や家族、ボランティア等、総勢120名の参加があり認知度も高く地域の中で定着してきた。月1回の町内の清掃奉仕での地域貢献や地域の子供達に訪問してもらい利用者と触れ合う機会を持つ等、地域とのつながりも充実している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設を紹介する広報誌を作成して、地域の方に認知症の人の理解や、相談窓口であることを知らせている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、施設の現状や取り組みについて報告や話し合いを行い、いただいた意見を施設のサービス向上に活かしている。	ホームの行事と併せて開催する事もある運営推進会議には行政、地域の人、利用者、家族等と参加人数も多く、日頃からホームの活動や状況をよく理解してもらっている。玄関に会議録を置き情報開示をしている。各会毎の評価と課題については今後も継続して目標としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの担当者と定期的に連絡を取り、情報交換を行って協力関係を築いている。	地域包括の担当職員とは日頃からこまめにメール等で連絡を取り合い、情報交換や助言・指導をもらっている。地域のグループホーム等や関連法人で実施している「改善コンクール」で連携を図ったり、市主催の研修会やケア会議に参加して情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を中心に、定期的な勉強会をして、身体拘束について正しく理解している。そして日々のケアで取り組んでいる。	玄関・出入口等への施錠はせず、外に出たい人にはその人の思いを尊重して何度でもついて行き、可能な限り職員が付き添い気分転換を図る等の工夫をしている。特に新人職員に向けては身体拘束や「待つて〜」等の言葉による拘束をしないという意識付けの研修を行い周知徹底をはかっている。	
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会を中心に、虐待についての勉強会を行い、日々職員間で注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について、研修等に参加した職員は、職員間で共有出来るように報告している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点について十分に説明を行い、納得していただいた上で同意のサインをいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族にアンケートを実施して、結果を家族会や文書にて報告している。これらを運営に反映させて改善に努めている。	利用者も家族もアンケートにはしっかり記入してくれるので思いや要望等を把握し易い。家族会、運営推進会議や行事への家族の参加も多く、意見交換や家族間の交流がしっかり出来ている。遠方の家族へはメールや手紙でやりとりをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の話し合いには、参加できない職員も事前に用紙に記入してもらうことで全員の意見を聞けるようにしている。	職員からは利用者との買い物の回数を増やす、食事作りに利用者の要望を反映した方が良い等の意見や提案があり、運営に反映させている。また、半期毎に各職員が目標管理シートを作成し自己評価・検証した上で、管理者とも個別面談をよく話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談を実施したり、目標管理シートを用いて個々の目標を設定して、向上心を支援できるように環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修案内をいつでも閲覧できるようにし、参加への支援を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1度、同業者との勉強会を行い、意見交換が出来る機会を作ったり、それぞれの研究発表を通じて、サービスの質を向上させる取り組みをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まず本人が思いを話せるような環境を作り、不安や要望を聞き出して、本人に安心して過ごしていただけるような関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時には家族に困っていること、不安なことを伺い、要望聞き取り書をお渡しして、その後のサービスに反映させて信頼関係の構築に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時の情報をもとにしっかりとアセスメントをし、本人と家族が必要としている支援を提供出来るように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者から料理の味付けを教えてもらうなど、その方の能力を生かしながら職員と共に支え合う関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の本人の様子などをこまめに家族にお伝えし、入浴や食事、外出などで、家族の協力も得ながら本人を支えていく関係づくりをしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近くにあるご自宅まで散歩に行き、ご近所の方とお話をしたり、ご友人が面会に来られたときはいつでも歓迎している	以前から家族の面会は多かったが利用者の顔ぶれも変わり、元職場の部下が面会に来てくれる人、日舞の教室の友人に電話をかける人、妹とよく連絡を取り合っている人等、それぞれが築いてきたこれまでの馴染みの関係を大切に継続する支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係が顔なじみになるような雰囲気作りをし、支え合えるような支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先での様子を見に行ったり、家族に近況を伺ったりして、フォローや支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いが表出できるような働きかけをし、希望や意向の把握に努めている。困難な方についても日頃から寄り添い思いを汲んでいけるように努めている。	利用者が答えやすい様式でアンケートをして、思いや要望を把握するようにしている。例えば食べたい物や食事場所への要望にも出来る限り本人の意向に添えるように個別の対応をしている。	それぞれの利用者の思いをどうしたら上手く引き出し、職員間で共有できるか、あらゆる方法で試行錯誤している状況がよく伺われる。その例の一つとして「利用者へのアンケート」があるが、その方法や活用の仕方をステップアップさせて欲しい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から生活歴や生活環境について聞き取り、それまで利用していたサービス等、関係機関から情報収集し、職員間で共有するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりについて日頃から心身状態の観察を行い、定期的に残存能力を確認できるようなことを提供して現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人からどのように暮らしたいかを聞き取り、家族からもケアについての要望を伺っている。それらをもとに職員からも意見を求め、よりよい介護計画を作成している。	ケアプランに基づいた統一したケアを職員に浸透させる為に、デイリーモニタリングシートを作成し、毎日評価しながらケアの充実を図るようにした。ケア記録には利用者の言葉や状態を分かりやすく記入する等の工夫が随所に見られ職員間で共有しやすい。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に本人の言葉や、職員の気づきを色分けする工夫を継続しているが、徐々に充実した内容でなくなっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、多種多様なニーズに柔軟に対応するため、常に何ができるか、どうすればできるかということを考え支援するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等で地域資源について情報を収集し、能力に応じて活用できるように努めているが、十分ではない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は入居時に希望の医療機関を確認し、適切な医療を受けられるように支援している。	母体の医療機関の医師の訪問診療があり薬剤師も同行している。周囲のバックアップ体制が万全で24時間365日いつでも気軽に相談できるので本人・家族も安心できる。訪問看護ステーションとも良い連携が出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃から小さな変化も訪問看護師へ報告し、情報の共有をしている。必要に応じて主治医へ報告してもらい、適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、早期に退院できるように主治医・看護師と密に情報交換している。また日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時や状態の変化があった場合に本人・家族と話し合い、十分に説明をし各関係機関とチームで支援する体制を整えている。	最期までこのホームでと希望する利用者・家族も多く、昨年3名の看取りをした。職員はこれまで数多くの看取りの経験があるが、母体の医療機関の医師からのターミナルの研修会もあり、今後も利用者・家族の希望があれば看取りの支援を行っていく方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に緊急時の対応についてのデモストを行っている。なるべく新人職員に積極的に参加してもらっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防訓練を行い、地域の方にも参加をお願いしている。また、消防署の方にも指導を仰いで、協力体制を築いている。	年2回利用者、地域の方も参加して消防署員の指導の下、火災通報装置の使い方や2階からの避難訓練等を実施した。2階からの避難誘導の模擬訓練では「毛布を使用した方がいい」と消防署員からの助言もあった。地震等の災害時に備えて常時3日分程の備蓄がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症について正しく理解し、一人ひとりの人格を理解し、尊重したうえで、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をするように努めている。	各居室にトイレは設置しており、プライバシーは守られている。羞恥心に配慮しパットの交換時等には自尊心を傷つけない様な声かけを心がけている。また、利用者個人の希望や嗜好も最大限に尊重している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を表出できるような関わりや言葉かけを行い、自己決定ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先させず、外出を希望されたときには出来る限りお応えし、一人ひとりのペースを大切に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服を本人に選んでいただいたり、お化粧が習慣となっている方には、家族にも協力していただきながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや能力を生かし、職員と一緒に調理や味付けなどをしていただき、食事を楽しむことが出来るように支援している。	今日の昼食は料理が得意な利用者が伝授する合わせ酢で味付けされた「ちらし寿司」を戴いた。リビングにある献立表も利用者が毎日ホワイトボードに記入し、出来る人は下拵えや盛り付け等をお手伝いしながら職員と一緒に作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態や力に応じて、食事形態や提供する時間などを工夫して、必要な食事量・水分量を確保出来るように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で出来ない方には、職員2人対応で、清潔保持に努めるなどして、一人ひとりに口腔状態や能力に応じた口腔ケアの支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、それぞれの排泄パターンを把握している。また、一人ひとりの能力に応じてトイレでの排泄の支援をしている。	以前より軽度の人が増えたので、排泄が自立の人や布パンツの人が多くなった。入所時には紙パンツとパットだった人が職員の適切なケアにより布パンツに改善した例もある。職員間で一人ひとりに適したパットの検討もしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトを食べていただいたり、運動の働きかけを行うなどして、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの体調やタイミングに合わせた入浴の支援をしている。拒否がある方に対しては無理強いせず、家族様の協力を得て支援している。	利用者の中には極度の入浴拒否があり、声かけ等様々な工夫を重ねながら職員が辛抱強く対応し、家族の協力も得ながらやっと入浴してくれるようになった人もいる。自分でゆっくり入りたい人には職員が近くで見守りながら入浴を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、日中でも居室で休んでいただいたり室温調節をして気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	安全に確実に内服していただいている。薬の内容や症状の変化の確認に努めているが、十分ではない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴や家族からいただいた情報、日々の関わりから、個々の能力を生かした役割や楽しみごとを提供できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望に沿って柔軟に外出の対応をしている。また、家族の協力を得ながら、特別な外出にも対応して支援している。	何年かぶりで軽度の人が増え外出も以前より出来るようになり、「サンロード吉備路」への日帰り旅行も実現した。米寿のお祝いに親戚との思い出作りの外出・外食を職員が支援したり、帰りたい人には自宅へ連れて行く等の個別支援もしている。	外出支援については「家族への協力依頼」「特別な外出支援」「一日旅行実現」等、着実に前進させている。次へのステップアップは「一泊旅行実現」と思う。近い将来、家族の協力も得て計画してみたいだろうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持されている方には、本人の希望に応じて買い物に行き使えるように支援しており、職員はそのことの大切さを実感し理解している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があった場合には直接話していただけるよう支援している。また、年賀状やお礼状なども希望された時には支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には季節を感じられるようなものを掲示したり、時間や場面によって居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングには利用者と一緒に作る季節の作品や書初め、自筆の句集等が展示しており、干支の「申」のパッチワークを制作中の人もいます。得意な歌を披露してくれる人や書写をしている人、句を考案中の人がいるなど、リビングには活気が満ちていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間に畳スペースがあったり、ソファがあったりして、それぞれが思い思いに過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族と相談しながら、なじみの物を置いたり、居心地よく過ごせるように配慮している。	居室入り口の写真の下に氏名を書ける人には自分で書いてもらってる。すっきりしたシンプルな部屋もあれば、冷蔵庫やテレビを置いて食事も部屋でと、大半を自室で過ごしている人もいて、自由や個性を尊重したその人にとって過しやすい環境になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は利用者の「できること」「わかること」を活かした掲示物や物品を配置して安全な環境づくりに努めている。		